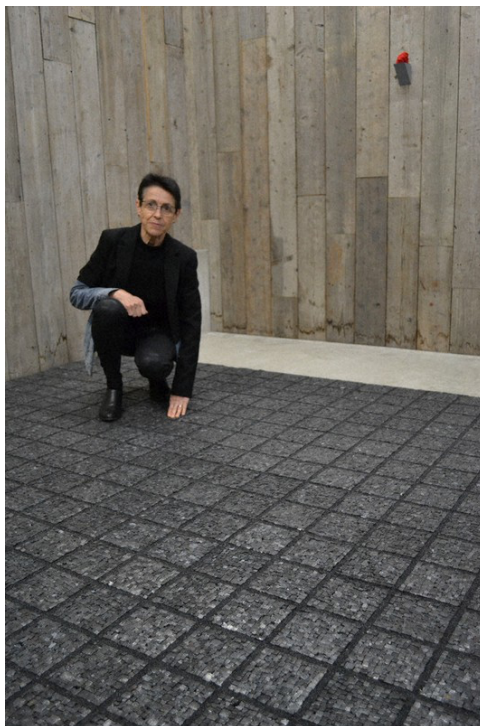


文字の力、アートで表現 金沢のアンドリュさん、名古屋で新作展 / 愛知



床面に鉛活字をマス目状に敷き詰めた作品「畑」と、作者のセシル・アンドリュさん＝名古屋市千種区で2020年11月7日、山田泰生撮影

金沢市在住のフランス人の現代美術家、セシル・アンドリュさんの新作展「SUR LES TRACES DE LA LETTRE—文字の痕跡をたどって」が名古屋市千種区内山のギャラリーHAMで開かれている。アンドリュさんは、デジタル化の波で「言葉」が生気を失ったと憂え、1990年代から文字そのものを可視化する作品を発表し続ける。21日まで。

会場床面に敷き詰められた3メートル四方の「CHAMP（畑）」は、かつて使用された大量の鉛活字の文字面を潰してマス目状に植えて制作した。鑑賞者は作品の上を歩ける。別の床面には「文字の重さを思い起こしてほしい」と鉛活字で両足をかたどった「EMPREINTE（足跡）」を配置した。

他にも、辞書を一枚一枚破った紙片を材料にしたインスタレーションが複数並ぶ。

アンドリュさんは「文字は人類にとっての宝石です。言葉は実体のない観念だけれど、手書きであれ印刷であれ、文字として痕跡が残る。デジタル化されない文字の力を表したい」と話している。

午後1～6時。21日は作家在廊。入場無料。【山田泰生】